わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
第８号
令和6年１１月１８日

本村小学校　祝！博報賞・文部科学大臣賞受賞

　ビッグニュースが飛び込んできました。博報堂教育財団が主催する第５５回「博報賞」において、本村小学校が最高賞の博報賞・文部科学大臣賞を受賞しました。「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰するものです。
　タイトルは、「平家踊りの伝統を受け継ぐ～コミュニティ・スクールの仕組みを活用して～」です。４０年続く平家踊りの活動に加え、コミュニティ・スクールの良さを活かし、地域の方と子どもたちが「熟議」を通して課題を共有し、子どもたちが主体的に行動する点が高く評価されました。下関市にとっても非常に嬉しく、励みになるニュースです。関係者の皆さん、誠におめでとうございます！

馬関まつりで演奏する子供たち

「平家踊りを受け継ぐ子」の会練習風景

「平家踊り体験学習」の様子（総合）

前田校長先生に博報賞についてインタビュー

活動のきっかけと目的は何ですか？

　「本村小平家踊りを受け継ぐ子の会」は下関市の伝統芸能「平家踊り」を継承していくことを目的として、昭和５９年に結成され、今年度で４０年目を迎えます。現在下関市内で踊り、太鼓、三味線、音頭の全てを子どもたちだけで演奏できるのは、本村小のこの会だけです。近年、指導者の高齢化や児童数の減少、コロナによる演奏機会の喪失といった様々な課題が発生し、活動の存続が危ぶまれました。しかし、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした「ふるさと玄洋学」を教育課程の中に位置づけ、マネジメントすることで、持続可能な取組になり、「技能の継承」から「伝統芸能で地域を活性化する」という主体的な活動へと発展しました。子どもたちの自己肯定感や自己効力感が高まり、郷土愛が育ってきていると感じています。

具体的にはどのような活動をされてきたのですか？

本校では「平家踊り体験学習」の活動を、特色ある教育活動として、教育課程に位置づけ、月に１時間、１・２年生は踊り、３・４年生は太鼓、三味線、音頭の三部門に分かれて地域の指導者から実技指導を受けてきました。さらに、５・６年生も加わり、「ふるさと玄洋学」として、「技能の継承」から「伝統技能で地域を活性化」していく活動へと発展しました。授業の一環として、下関駅でのイベントに参加して、観光客の前で演奏や踊りを披露したり、青森県の小学校とオンラインで伝統芸能交流を行ったりしてきました。

スタートアップ熟議

平家踊り PR 隊

江の浦夏祭りで PR

活動・指導における工夫や特徴、子どもたちの主体性をどのように引き出されたのですか？

コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、学校・地域連携カリキュラムを充実させるために本校が取り入れているのが、熟議（「熟慮」と「議論」を意識した話し合い）です。昨年度「みんなで考えよう、本村の未来」をテーマに、地域の方と５・６年生が話し合った時に、「本村の魅力をもっと知ってもらうために自分たちでできること」として、平家踊りの動画作成などの意見が出されました。また、今年４月に実施したスタートアップ熟議では、「〇〇したいを現実に！～友達や地域と関わり合いながら～」というテーマで話し合い、そこで出た意見をもとに、本年度の「ふるさと玄洋学」の課題を自分たちで設定していくことになりました。このように熟議→単元計画→学習→発表という課程において、子どもたちの主体的な学びを引き出すシステムを構築していきました。この熟議の後、５年生が玄洋中学校の全校集会で中学生の協力を呼びかけ、中学校も巻き込んだ活動にしていくことができました。

下関駅前で演奏披露

引き継ぎ式

中学生も練習

青森県との交流会

前田校長先生へのインタビューを終えて

教育委員会では、現在「参加とともに参画」をキーワードに下関市の地域連携教育を推進しているところです。「地域とともにある学校づくり」を地道に続けてこられた結果がこの受賞につながったということが良く分かりました。改めて、おめでとうございます！

「わくわく地域連携教育だより」は、生涯学習課 HP にもアップしています。
ご意見・ご感想がある方は、以下のメールへお送りください。
shinnai.toshimasa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp